
スピリットサッカーR

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピリットサッカー

【コード】

N4981D

【作者名】

三代渡吉

【あらすじ】

未来の世界。サッカーは飛躍的すぎる進歩を遂げていたらしいです。

ここは遠い遠い、もう言いたくなくなるくらい未来の世界。

そんな未来になったって、人間は飽きもせずサッカーサッカー言ってます。

でも、やっぱり同じことしてもつまんないってことで、ルールは大分変わってました、いいんです。未来だから。

「おうおうおうおうおう！　今おうって何回言ったか言ってみる」

「……七回！」

「君は偉い、人を良く見ているなあ、すげえよ。おいみんな、相手には人を見る目がある奴いるから注意しろよー！」

「そこ！　くだらない話してると退場にするぞー！」

今では試合前の駆け引きなんて日常茶飯事なもんです。まあ大体はこうして止められますが。

ところで、未来ともなると、重力を操ったりできるからすごいですよ、そんなわけで、この360度サッカースタジアムには重力がありません。

もう、だからボールは自由なんです、人に蹴ってもらえれば、彼は自由になれるんです。

まあボールの人生がどうなるかはさておき、いよいよ試合開始です。審判さんが選手を連れてやってきました。

選手はみんな、昔みたいに動きやすい服装なんてしません。鎧を着たり、物々しい格好したり、とにかく戦闘に適した格好をします。どうしてかは……もうすぐにわかります。

「プレイボール！」

「あ、てめえ野球の審判じゃねえか。土足で踏み入りやがって、このスパイ野郎！！」

「あれね？ しまったー！ すいません、うっかり間違えちゃって」
「知るか！ 食らええええ！ フレームボンバースパークキーツク！！」

ドーーーーン！ という爆発が起きたかと思うと、審判の人は跡形もなく粉微塵になってしまいました。もうモザイクかけないと見てられないです。

そうです、もう未来のサッカーは戦場なのです、関係ない奴が入ってこようものなら、こういうことになってしまっんです。

あ、ちなみにスパイとか言ってますが、別に野球選手とサッカー選手が戦争してるわけではありません。

邪魔者がいなくなったところで、ようやく試合開始です。

「キックオフ！！」

「いきなりサンダーライトニングトルネードシュートオオオ！！」
バキィッ！！ と人の骨が折れる音がしました。

「アウチ！！ アウチ！！」
ボールを取りにいこうとした相手の選手が、もろにこのサンダーライトなんちゃらを足に食らったのです。

足はもう黒こげ、これでは義足でもつけない限り再起は不可能と
言えるでしょう。

めめそと泣きながら、怪我をした選手は退場して、代わりの選手が入ってきます。

すごいですね、体がでかいし、全身に武装してますよ。こんなものを持ち込んで、何をする気なのでしょうか？

「よくも兄貴を！ この試合絶対に勝つぞ！！」

「「「オーウ！！」」」

「試合再開！！」

「いくぜ、ファイナルウルトラスーパーガンデストロイヤー！！」

「！！」

チユドドドドドドと、辺りに弾薬の嵐が飛び交います。見境なしに飛んでいきます。

客席は一応ガラス張りされてますが、予算がなくて、あんまり頑丈じゃありません。

関係ないところに放たれた弾薬のいくつかが、客席に飛んでいったかと思うと、あとはもう周りのガラスが真っ赤になるだけでした。キヤーキヤー！！ という歓声が辺りから巻き起こります。

これは派手ですから、盛り上がるんでしょうね。

「おのれー！！ まずはお前から潰してやるぜー！！ グレートさぬきウドンが今月はなんと大特価で半額だぞパーンチ！！」
「な、何い、こうしちゃいられねえ、スーパーいつてくるぜ！！」
すると全身弾薬庫さんは、銃を全部捨てて、スタジアムから出て行っしまいました。なんか財布探ってます。完全に面白い物モードみたいです。

「タイム！！ くそ、選手補充だ！！」

また向こうのチームは選手を交代しました。さっきの審判の名残か、ウグイス嬢がアナウンスしちゃってます。

「八百屋の佐藤さんだ！ そっちが商売人使ってくるなら、こっちも商売人だぜ！」

「何を！！」

そして佐藤さんが、ニコニコしながら相手チームへと向かっていきます。

「いつもお世話になってるからねえ、これ一本サービスするよ」

「うおおおお！！ 佐藤さーん！！」

すると、全身武器男を退散させた男は、佐藤さんの人情に負けて寝返ってしまったではありませんか。

言うまでもないですが、仲間の人たちはカンカンです。とても汚い言葉が飛び交っています。

でも言われてる男は、もう佐藤さんの人徳に惹かれまくっています。まるで飼い猫のように手馴れされています。

「再開」

という審判の声と同時に、彼は一斉に元仲間達に襲われてしまいました。

骨の折れる音とか、肉が千切れる音とか、もう後は聞きたくないというような音がしばらく続きました。

彼等が満足してその場を離れると、そこには男の人の骨が転がっていました。

「なんと可哀想なことだ……」

佐藤さんが、哀れな姿になってしまった彼の骨に近づきます。すると、骨が急に爆発しました。

気づいた時にはもう遅し、佐藤さんは爆発に巻きこまれて、見るも無残な姿になりました。

燃え盛る佐藤さんの身体を見て、チームメイト達は、ショックのあまり膝をつきます。

「佐藤さー！ーん！！」

「チクショー、なんてエグイことをしゃがる、アイツラアア！！」

「絶対相手チームには負けねー！！ 佐藤さんの仇をとるぞー！！」

ついに一致団結した彼等は、仲間の無念を晴らすべく、改めてボールに向かう。

あー、ようやくサッカーらしくなった。

「俺達は絶対に勝つんだ。死んだ佐藤さんのためにも、そして、俺の貴子たかこのためにも！！」

ここでようやく主人公らしい人が出てきましたね、と思ったら一気に試合が始まりましたよ。

彼は、一気にボールを奪うと、跳躍して相手の頭上を舞いました。これぞ無重力の力というものですな。

そして、足に何かエネルギーを溜め込みながら、ムーンサルトキックでもかますように、身体を海老反りさせました。

サッカーなのに、まるで棒高跳びみたいな感じになってきました。

「くらえ外道ども！！ 海老菓子ファイヤー！！！！」
そのまま彼はシュートをぶちかましました。物凄い勢い、物凄いスピードです。

おまけに、これは海老反りの効果なのか何なのかはわかりませんが、すごいカーブしています。

この無茶苦茶さなら、きっとドリフトレーサーも真っ青してくれるはずだ！

「う、うわああああ！！ 俺は海老が大嫌いなんだー！！」

ここで運の悪いことに、キーパーの海老嫌いが発動して、シュートは誰にも防がれることなく、入りました。

誰がなんと言おうと、そのシュートは見事に決まりました。笛がなります。

「ピピピピ！！！！ 試合終了！！！！」

やったー！ と、佐藤さんがいたチームが歓声をあげます。とても都合の良い時間に試合が終わりをつげたのです。

相手チームは、そりゃもう悔しそうにしています。よほど勝ちたかったんでしょう、残念なことです。

見ている者の誰もが「都合主義」という言葉を思い浮かべる前に、シュートを決めた男はある所に目かけて一直線に走ります。

「貴子ー！！ お父さんはやったぞー！！！！ 勝ったんだー！！！！」

男は、娘の所まで急いで走ります。でも、元気な娘さんはそこにはいませんでした。

あつたのは、銃弾に貫かれて、血みどろになって倒れている、彼の娘さんの死体が倒れていました。

そんな……と男はまた膝をついて、肩を落としました。まさか、試合に夢中になりすぎて、最愛の娘を失うことになるとは。

とても空しい絶叫が、辺りにしばらく反響しました。

「いやー、すごい試合でしたねー、解説の島西さん？」

「あ、ごめんなさい。漫画読んでました」

「もうクビにされますよいい加減にしないと。じゃあ今回のゲストで、歌手のミッチーコさんに一言いただきましょう。」

「……………」

「あー。知らないうちに撃たれていたみたいですね」

「げげー！！ 俺の漫画に返り血がついてるじゃないか！！ なんてことだー！！ ちくしょおおお」

「……………そろそろ苦しくなってきたところで本日の放送を終わります。明日は、アマクダリーズ対セツタイーズの試合をお送りいたします。では、ごきげんよう」

2008年1月某日・とある少年サッカーチーム

「コーチ、俺サッカーやめるよ」

「え?! どうしたんだ今道いまみち！ お前、将来プロサッカー選手になるって、念願のレギュラー入りも決まったじゃないか！」

「なんていうか……………未来のサッカーに希望が持てないんです」

(後書き)

途中から技の名前が寒くなっていくのを肌で感じていました。報われない貴子。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4981d/>

スピリットサッカーR

2010年10月8日15時29分発行